

地域芸術を愛でる塾





塾長 青柳 智子

■ 塾長コメント ■

今年度 1 年間、長崎伝習所の塾活動の 1 つとして「地域芸術を愛でる塾」の活動ができ、何よりも感謝申し上げます。ひとまず、1 年間無事に活動を終えられてホッとしています。

「長崎にいと、生活の中でふと飛び込んでくる音楽やアートに出会えない」

そんな個人的な気づきから伝習塾に応募し、採用していただいた本塾。ありがたいことに 20 代～70 代までの幅広い年代の塾生に恵まれました。私自身も初の試みでもあった塾活動は、大変な時もありましたが、一緒に長崎の芸術について考えてくれる塾生がいたからこそ最後まで活動できました。感謝です。

伝習塾としての活動は本年度限りですが、塾生と制作した冊子や本年の研究が長崎における表現活動の為にお役に立てれば幸いです。

■ 塾の目的 ■

地域芸術を愛でる塾の目的は、「地域のアートを地域で愛する文化・環境を創ること」です。

本塾では 1 年を通して、

- ・長崎での芸術の可能性を一緒に考えること
- ・音楽や芸術のイベント、文化がどのように実施されているのか共に学ぶこと

- ・街を芸術表現の舞台として観察し、フィールドワークで研究したことを冊子にまとめ発信すること

に取り組んできました。

その中で、地域芸術を愛でる塾の塾生やこの塾に関係してくださる(今こうして読んでくださっている)方々と一緒に知り、考え、教え合ったりすることで、地域の中で生み出される表現やその活動が地域に愛されるきっかけとなれれば願っています。

その延長に、長崎の暮らしの中でより身近に芸術や表現の豊かさに触れられ、心の豊かさや生活にふとした余裕が生まれたなら長崎はもっと素敵な街になることでしょう。



■ 塾の研究・活動内容 ■

今年度は軸を「音楽」に定め、以下のように調査・研究を行いました。

○フィールドワーク



アーティストが芸術・表現活動をするにあたって、

① 表現活動の場であることを目的の 1 つとしているが、活用に伸びしろがある施設

② もともとは芸術・表現の場としての利用は考えられていなかったが、活用に課題があり、今後の可能性を模索中の施設（飲食店、洋館、公共施設など…）

をピックアップし施設の特徴や芸術表現の企画をする際の留意事項を調査しました。

○講師を招いての勉強会



「表現の場」として施設設計に携わられている方の視点を学ぶ勉強会を 2022 年 9 月 11 日に出島メッセで行いました。講師は出島メッセ設計に携わられた吉生寛さま。「設計者が捉える表現空間一内と外、余白、場の力」と題し講演していただきました。

○先進地域への視察



「芸術×街」の観点で地域活性化の取組に力を入れている佐賀県へ視察に伺いました。

○冊子制作・情報発信等

塾活動の後半はそれぞれ、各自でフィールドワークを行い、演奏表現の場として可能性がある施設取材し、冊子制作を行いました。



■ 塾活動の成果 ■

1 年間の塾活動を通して、様々な困難もありましたが、それ以上に大きな学びや新たな発見が多くあった塾活動となりました。

◎長崎は表現活動の場として大きな可能性を秘めている…！

詳しくは、塾の成果物である「Nagasaki Note Book-長崎の音ブック-」をご参照いただきたいのですが、長崎にはコンサートホールやライブハウス以外にも生活エリアに近いところで表現活動が出来そう！という場所がいくつも挙がりました。冊子では一部しかご紹介できませんでしたが、福祉施設や唐人屋敷などといった観光施設・教会なども候補に挙がり、そういった場所はロケーションも相まって魅力的な表現演出ができるのではと期待が持てます。ただ、今回掲載に至らなかった理由として、いつでも無条件に演奏して良いという訳にはいかなかったり、近隣住民への配慮を懸念して、などがありました。やはり、音楽の表現には音量を始め奏でる音楽の音質・ジャンル等も複雑にありますので、事前に施設関係者や近隣の方へ自身の演奏のスタイルや表現のイメージを伝えるなど、対話によるコミュニケーションを大切に信頼関係を築き理解とご協力を得ることが重要です。しかし基本的には、どの施設の方々も優しく音楽や芸術に関しては好印象をお持ちでした。

地域芸術を愛でる塾 活動記録		
日 時	場 所	内 容
令和 4 年		
5 月 18 日(水)	長崎市立図書館	第 1 回ミーティング・顔合わせ
5 月 28 日(土)	市民活動センターランタナ	第 2 回ミーティング・フィールドワークのポイント
6 月 12 日(日)	水辺の森公園	フィールドワーク
6 月 25 日(土)	東山手地区町並み保存センター 会議室	第 3 回ミーティング・振り返り・冊子制作について
7 月 2 日(土)	男女共同参画推進センター(アマランス)会議室 4	第 4 回ミーティング・参考冊子を持ち寄り研究
8 月 7 日(日)	茂木(月と海 mog/裳着神社)	フィールドワーク
8 月 24 日(水)	男女共同参画推進センター(アマランス)	第 5 回ミーティング・振り返り・勉強会について
9 月 11 日(日)	出島メッセ長崎 会議室 111	勉強会(講師：吉生寛さま)
9 月 16 日(金)	オンライン	第 6 回ミーティング・冊子デザイン打ち合わせ
9 月 28 日(水)	HafH 会議室 & オンライン	第 7 回ミーティング・冊子制作について
10 月 16 日(日)	市民会館第 2 会議室	第 8 回ミーティング・中間報告会について
10 月 22 日(土)	市民会館第 2 会議室	第 9 回ミーティング・冊子制作、研修旅行について
11 月 9 日(水)	市民会館第 8 会議室	第 10 回ミーティング・研修旅行、イベントについて
11 月 23 日(祝・水)	佐賀県各所	研修旅行
12 月 21 日(水)	市民会館小会議室	第 11 回ミーティング・冊子制作について
令和 5 年		
1 月 4 日(水)	オンライン	第 12 回ミーティング・執筆進捗確認
1 月 18 日(水)	オンライン	第 13 回ミーティング・執筆進捗確認
1 月 25 日(水)	オンライン	第 14 回ミーティング・執筆進捗確認
2 月 1 日(水)	男女共同参画推進センター(アマランス)会議室 2	第 15 回ミーティング・冊子制作について
2 月 15 日(水)	市民会館第 5 会議室	第 16 回ミーティング・印刷会社様と打ち合わせ
2 月 23 日(祝・木)	東山手「地球館」	第 17 回ミーティング・冊子校正作業
3 月 2 日(木)	東山手「地球館」	第 18 回ミーティング・冊子校正作業
3 月 15 日(水)	市民活動センターランタナ	第 19 回ミーティング・伝習所まつり準備
3 月 18 日(土)	ベルナード観光通り	伝習所まつり参加

【成果物：Nagasaki Note Book について】

本年度は成果物として

「Nagasaki Note Book-長崎の音ブック-」
を製作いたしました。

これは、長崎の魅力的な施設の中で「コンサートホール・ライブハウス以外」に「音楽表現」が可能・またその可能性が十分にある施設について紹介している冊子です。

こういった場所から、長崎で活動するアーティストが表現の場を獲得し、長崎の音を創っていく手助けになればと想いを込めて製作いたしました。冊子の中に、本塾の活動なども合わせて掲載しています。

—内容—

- ・塾長挨拶
- ・塾の紹介
- ・塾活動のこれまで
- ・えんそう場所紹介・冊子の見方
- ・えんそう場所紹介
- 水辺の森公園(森の劇場)
- 茂木(月と海 mog)
- 東山手「地球館」
- 長崎市役所(多目的スペース)
- 教宗寺
- ・勉強会報告
- ・研修旅行報告
- ・編集後記・活動写真

【2022. 9. 11 勉強会報告】塾生：山脇理奈

「設計者が捉える表現空間—内と外、余白、場の力—」講師：吉生寛先生

地域芸術を愛でる塾の勉強会として建築家の吉生寛先生にお越しいただき、ご自身が設計に携わった施設、また音楽など表現をする場として興味深い施設のご紹介を交えてご講演をしていただきました。

福岡国際会議場をはじめ、府中の森芸術劇場ウィーンホール、かごしま環境未来館、熊本駅ビル、屋久島環境文化村センター、ソラリア西鉄ホテル京都、九電工アカデミー朋学庵、出島メッセ長崎など数々の施設を解説してくださいました。

お話の中で印象的だったのは、府中の森芸術劇場のホールについてです。シューボックスという四角の箱型になっていることで音が均一に伝わり、壁面を凸面にする事で音が豊かになるということでした。またピアニストのハニャ・ラニ(Hania Rani)さんが、パリの歴史的建造物の1つ、ナポレオンが眠るアンヴァリッドにて屋外コンサートを行った際の映像をご紹介いただき、外であっても中庭のように周囲に建築物があるとシューボックスの役割になることを知りました。このように音楽の演奏のために設計された建物や音楽のためでなくとも効果的なつくりになっている建物、どれも興味深い内容ばかりでした。

ご講演後には、設計にも携わっていらっしゃる出島メッセ長崎の稲佐山プロムナードでフィールドワークを行いました。

こちらも言ってみれば屋外シューボックスのようなつくりで稲佐山にフレームをつけたように見える景観や吹き抜ける風が心地よく、音楽の表現の場として活用されるのいいのではないかと思います。

今回のご講演を受けて、屋内外に関わらず場の力や可能性、面白さを建築家さんの視点で学ぶことが出来、今後の塾活動でもこの知識を役立てながら長崎の街の可能性を探っていきたいと思いました。

【研修旅行報告】塾生：鶴田桃子

11月23日に行われた研修旅行では佐賀

へ足を運び、限られた時間の中で地域芸術について理解を深めました。

最初に訪れた佐賀大学にある美術館では常時展覧会が開催されており、佐賀大学に通う生徒の作品も観覧することができます。佐賀大学にある芸術地域デザイン学部では、芸術を通して地域の活性化や国際化を目指しており、芸術的な視点が求められる場で必要とされる手法や感性を磨くことができます。実際に芸術地域デザイン学部に所属されている宮崎さんにお会いし、普段の授業や地域と芸術の繋がりについてお話を伺い、意見交換を行いました。

次に向かった場所は、旧枝梅酒造です。

枝梅酒造の歴史は長く、明治・大正・昭和・平成と続きましたが 2009 年に事業を停止し、その後「佐賀市」と「NPO 法人まちの根太」により、当時の姿を残したままシェアアトリエ・イベントホール・休憩所・料理屋などに生まれ変わりました。営業当時に使われていた物が今でも保管されており、その姿と雰囲気は圧巻でした。

「NPO 法人まちの根太」が管理する西の蔵と東の蔵では、展示会やコンサートが行われています。この日行われていた森正彦さんの個展「FUN FUN FUN」×KOTODAMA ART は、廃材を使用したオブジェと『書』のコラボレーションで、芸術を身近に感じることができました。

最後に訪れた 656 広場では、コンサート・ダンスショー・マルシェ・ふれあい交流などが行われており、普段は地域住民の憩いの場になっています。しっかりとした音響設備があり、雨天時の対策もされているため、イベントには最適な場所です。近くにはカフェや読書コンテナがあり、ゆったりとした時間を

過ごすことができます。

長崎とは違った風景や建物は、地域と芸術の繋がりを広げていく上で新しい刺激を与えてくれました。特に旧枝梅酒造は、アート展示やコンサート開催のために工夫がされており、アーティストに寄り添うことができる素敵な場所だと感じました。

また、佐賀は温かい方ばかりで、研修旅行をする中で色々なことを教えていただきました。地域に愛される施設があり、人の温かさがあるからこそ、地域と芸術の繋がりが深いのではないかと思います。

長崎でも、もっと芸術を身近に感じることができるよう、今後も芸術を愛し、広める活動に関わっていきたいと思います。

【その他】

今年度「地域芸術を愛でる塾」として活動をする中で、意外にも得ることができた気づきを【その他】として共有いたします。

・20 代～70 代の塾生が集ったこと

幅広い年代で塾活動を行うことで、同世代同士では気づけない視点を与え合うことが出来ました。塾の本来の活動からは離れる気づきもありましたが、特に 70 代の方が塾活動をきっかけに「LINE」を始める、オンライン会議ができるようになる、など新鮮な出来事でした。

・「芸術表現の場をつくること」への興味関心について

本年度、集っていただいた塾生は名簿上全部で塾長も含め 8 人でした。このうち 3 名は執筆も含め塾活動を最後まで一緒にすることが叶いませんでした。伝習塾の活動は運営の面においてもある程度塾生が豊富に在籍していることが理想と思いますが、本

塾に関してはそれが叶わなかったことが塾の運営をとて困難なものにしたと考えています。塾長自身、未熟な運営だったことへの反省は大前提であるのですが、その他に長崎の芸術シーンについての関心の低さはもちろん、またそれを「創る側」への興味関心がまだまだ長崎にとってはハードルが高いものなのかもしれないなと感じました。気軽に芸術を享受できる環境を創るためには、それを「企画し、準備する人」が必要であり、そういった方を育てることも重要課題の一つだと気づかされました。

地域芸術を愛でる塾

塾長	青柳 智子				
1	山脇 理奈	21		41	
2	鶴田 桃子	22		42	
3	島田 和文	23		43	
4	大草 一俊	24		44	
5	柳田 峻典	25		45	
6	林 幸之	26		46	
7	脇浜 未紀	27		47	
8		28		48	
9		29		49	
10		30		50	
11		31		51	
12		32		52	
13		33		53	
14		34		54	
15		35		55	
16		36		56	
17		37		57	
18		38		58	
19		39		59	
20		40		事務局員	文化振興課 下川 耕太郎